

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	滋賀県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	近江八幡市立桐原東小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	2	3	2	2	4	18	29
児童数	77	85	76	92	72	62	5	469	

研究の概要

1. 研究主題

課題を見つけ、意欲的に解決・追究し、豊かに表現する子の育成をめざして
 ~少人数指導など授業の工夫改善を通した確かな学力の育成~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

2, 4, 5年生の算数科

本校では、昨年度より算数科における少人数授業等きめ細かな指導を3年生以上の学年で様々な授業方法を通して研究実践し、計算力など算数における基礎・基本の確かな習得に関し一定の成果をみることができた。しかし、見える学力としての知識、技能に関する基礎的・基本的な能力を確かな学力とだけとらえることは激しく変化する社会に柔軟に対応し学び続ける上で必要な「生きる力」を支えるに十分とは言えない。本校では、学ぶことに対する興味・関心・意欲を基に、自らが課題をもち、考え、探求し、表現する活動を通して培われる学ぶ力および知識・技能に関する力を総じたものを「学力」ととらえる。そして、この学力の確かな向上のために、課題別・習熟度別学習のあり方や一人ひとりの個に応じた補充的・発展的な指導法の開発など、より多くの実践研究をする必要があると考える。

そこで、本事業において算数科における授業改善を基盤としつつ、教科指導全般においても児童の学力向上を目指した問題解決的学習や個に応じた指導方法の実践的研究を目的として低中高学年より1学年を選んで研究を行うこととした。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 課題を見つけ、意欲的に解決・追究し、豊かに表現する子の育成をめざして ~少人数指導など授業の工夫改善を通した確かな学力の育成~</p> <p>研究の見通し(仮説) 子どもたちの心をゆさぶる学習場面等を設定し、学習への関心・意欲が継続するような単元構成や個に応じた学習集団の活用を図り、一人ひとりの学びに応じたきめ細かな学習支援および評価を行えば、確かな学力とともに主体的に問題解決できる力を身につけた子どもを育成することができるであろう。 また、習熟度による個に応じた指導の工夫改善をはかれば、一人ひとりに確かな学力を身につけることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 算数に関する学力および学習意欲に関する調査分析を適宜実施する。 少人数による学習指導を取り入れ、授業改善に関する研究を中心に実施する。 よりきめ細かな指導が必要な子に対する基礎的・基本的な内容の確かな定着を目指した指導の工夫改善を実践研究する。 発展的な学習内容を適度に組み入れ、教科で培う本質的な力が身</p>
--------	--

につく創意工夫ある指導方法について実践研究を行う。
 自己の考えを表現し、交流・検討する学習方法に関する実践研究を行う。
 指導に生かす評価について実践研究する。

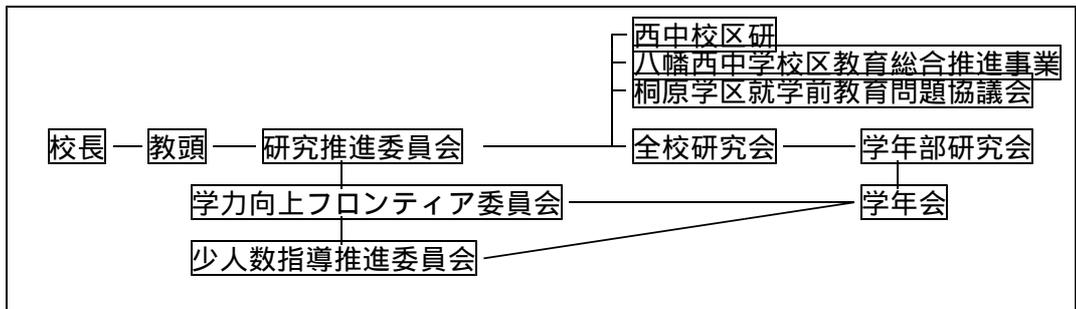
平成16年度

テーマ
課題を見つけ、意欲的に解決・追究し、豊かに表現する子の育成をめざして
 ～少人数指導など授業の工夫改善を通じた確かな学力の育成～

研究の見通し（仮説）
 平成15年度に同じ

研究の内容・方法
 学力および学習意欲に関する調査
 よりきめ細かな指導が必要な子どもたちに対する基礎的・基本的な内容の確かな定着をめざした指導の実践研究
 少人数指導等、授業改善に関する研究
 自己の考えを表現し、交流・検討する学習方法に関する実践研究
 指導と評価に関する実践研究

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

本校では「学力」をいわゆる見える能力だけにとらえるのではなく、関心・意欲等に言われる見えない力も重要視し、研究の主題を設定して取り組んできた。見える学力としての知識、技能に関する基礎的・基本的な力を確かな学力として一人ひとりの子どもたちに身につけることが重要なことはいまでもないことである。しかし、将来に生きてはたらく能力として学力を考える時、学ぶ力としての思考力や表現力、さらに学ぼうとする意欲の向上を高めることは大切なことであると考える。

(少人数指導について)

そこで私たちは算数の学習指導を通じて子どもたちが楽しく意欲的に学ぶための指導のあり方として、個に応じるきめ細かな指導ができるための学習集団について研究するため、2年生以上の各学年において少人数指導を積極的に取り入れてきた。

1学期は各学級を単純2分割する等質集団による少人数指導を実施してきた。この方法は昨年度からも時折行われていたものであるが、今年度は当初より各単元毎に児童の学習状況を見ながら取り組んできた。学級を2分割して指導を行うということは、当初、「単に人数を少なくすれば効果が上がるであろう」というものであったが、2学期以降は習熟度による少人数指導を行う中で、さらに子どもたち一人ひとりの課題等に応じた積極的な指導を工夫する必要があることが見えてきた。

(少人数指導の効果)

少人数による指導は学級集団を解体して行う指導であり、学級経営に与える影響や子どもたちの間の人間関係、さらには高学年にあっては学習能力に対する子

どもたちの偏見等にも留意する必要があった。しかし、子どもたちの学習における「わかるようになりたい」という思いは熱く、各集団に応じた単元の指導過程を工夫したり、状況に応じて児童支援加配等の協力を得た指導体制やTTによる指導方法を取り入れたりすることで、子どもたちの少人数指導に対する思いに変化が見られ、それを期待する姿が伺われるようになった。

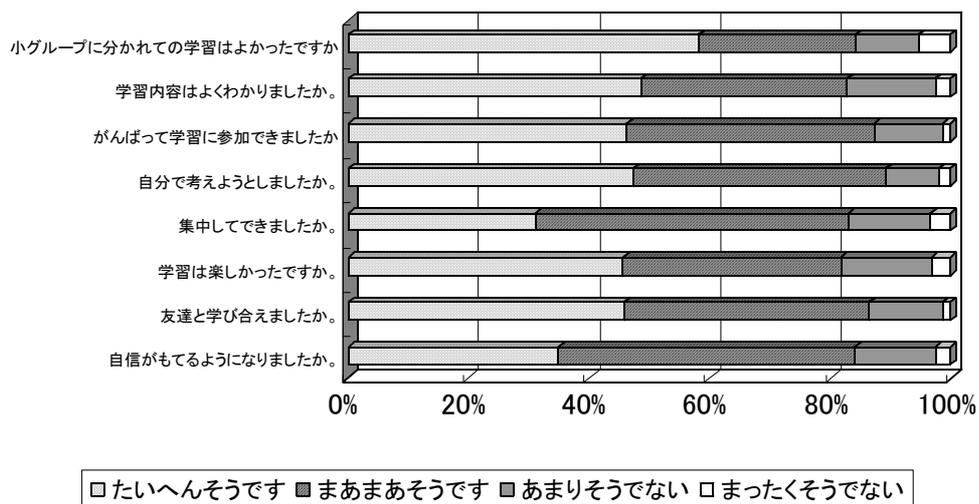
(少人数指導における重要点と配慮事項)

特に、第4, 5学年では学習コースを子どもたち自身が選択する習熟度別指導を前向きに行い、個に応じた指導の充実を図ってきた。単元の指導方法を各コースの子どもたちの課題に応じて立案し、実施することは、個に応じて指導することにおける重要な要素であることがわかった。

しかし、学習コースが真に自己の学力を的確に見つめ自己評価できる学年でない限り、コース選択による学習指導はその効果が半減することも多分に考えられることである。生徒指導的側面や友達との人間関係で課題を抱える場合、単に学力の自己評価だけではいかなる複雑な状況があり、加配教員と学級担任とのより綿密な協議が必要であることがわかった。

また、今年度はコース別学習は4年以上で実施してきたが、3年生以下では自己判断力の未発達な面があるという判断から実施には至っていない。ただ、学習に対する自己評価能力を培うことはすべての学年で重要なことであるため、コース別学習指導を行うことの如何にかかわらず、日常の指導のなかで取入れ、その能力を培うことは大切である。

2学期末 算数の学習に関する児童アンケート (2~6年)



(課題を抱える子どもたちへの指導)

学力的に大きな課題を抱える子どもたち等(前学年の学習内容が十分身につけていない等)への指導は学校教育における大きな課題である。今年度は部分的に児童支援加配等の協力を得ながら取り組んだが、その効果や成果を十分検討するまでに至っていない。次年度以降、全教師の指導体制や週あたりの指導時間数、年間指導時間数など教育課程全般の抜本的な検討をし、具体的な指導体制を構築する必要があると思われる。

(単元構成や教具の開発)

実践研究の中で、発展的な内容の取扱いについても協議した。発展的な内容は高度な内容を指導することではなく、基礎的・基本的な学習内容の本質をより深く理解させるための指導内容ととらえ、必要に応じてはすべての児童に対して取り上げる場合もあることがわかった。(例: 小数のかけ算で小数第2位までを取り扱うこと等) また、子どもたちの学習意欲を高め主体的な学びをもたらすための学習活動や教材教具を開発することは重要なことであることがわかった。

2. 今後の課題

- * 習熟度別（コース別・課題別）学習指導における指導の創意工夫について、多くの学年で実践研究を行う。その中で、課題の大きい子どもたちへの指導の具体的なあり方等、指導体制全般の検討をも含めて研究する必要がある。
- * 学力の客観的な調査や評価活動を通じて、本校の子どもたちの学習上の課題等について研究し、実際の指導に生かす。
- * 子どもたちの学習意欲を向上させる課題や教材教具の開発、指導過程の工夫を通じて、問題解決能力を培う指導法の工夫改善を図る。

学力等把握のための学校としての取組み

- * 算数に関する学力の状況調査
目的：計算領域を中心に本校の子どもたちの学力についてテスト形式で診断し、今後の授業に生かすことを目的とする。
対象：2年生以上全員
内容：前年度までに履修した基本的な計算問題を課し、その正答率を学年および問題のタイプ別に集計し分析する。
また、個々の児童についての達成状況をまとめ、個の指導に生かす。
時期：平成15年4月下旬（実施済）と平成16年2月下旬（実施予定）
- * 算数の学習に対する意識調査
毎学期末に2年生以上の学年で、アンケート方式で調査する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 学力向上フロンティア事業第3地区協議会の開催（予定）
目的：「確かな学力」向上のため、個に応じた学習指導等に関わる実践研究の推進および普及のため
日時：平成16年2月9日（月）13：30～16：50
場所：近江八幡市立桐原東小学校
対象：第3地区の小中学校
- * 成果の普及
上記の研究会や学校のHP、校長通信等を通じて普及に努める
<http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~kirihiga/index.htm>
また、年度末には研究成果をまとめた独自のCDを市内および関係各校へ配布する。
- * フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績予定
自校の職員向けに研修内容をまとめた「Frontier Mail」を作成し、配布している。
県主催のフロンティアティーチャー研修会への参加（年3回）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無